

地域ブロック：関東

ルート名称：秩父路ルネッサンス

活動名称：景観間伐・視点場づくり

## 1. 活動の概要

### (1) 活動内容

- 沿道のスギやヒノキの一部を伐採することにより、道路からの眺望を改善し、訪れる人が“いい”と感じる景観づくりとして、「沿道森林の景観間伐」と「視点場（眺望空間）づくり」を行うものである。

#### ①沿道森林の景観間伐（秩父市）

- ・沿道のカーブにおける視距の確保を目的に2カ所（秩父市白久）、カーブの正面に見える県指定史跡「神庭（かにわ）洞窟」（秩父市大輪）の視認性確保を目的に1カ所で景観間伐を実施した。実施にあたっては、公募によるボランティアにも参加してもらい、都市と中山間地の交流によるまちづくりという仕組みを付加させた。

#### 【実施前】



#### 【実施後】

#### ②視点場（眺望空間）づくり（秩父市）

- ・秩父市の金蔵落しは、荒川上流の急峻なV字谷で、谷底を見下ろす風景は正に絶景ともいべき場所である。周辺は秋になると紅葉の美しい場所で夜にはライトアップもされ、多くの観光客の目を楽しませている。
- ・今回実施した大血川橋周辺は、谷間に分け入っていくような雰囲気のある場所で溪谷と紅葉を鑑賞するスポットである。しかし急峻な地形のために車を駐車する余裕がないなど、ゆっくりと眺望を楽しむところではなかった。
- ・そこで、紅葉の景勝地を楽しむための空間づくりとして、駐車・回遊スペース、景観間伐による眺望スペースを整備した。実施にあたっては、発生する間伐材を使った木柵や木質チップ舗装を施すなど自然素材を最大限活用した。さらに、観光案内版を設置した。

#### 【駐車と回遊スペース】



#### 【観光案内看板】



## (2) 活動による成果・効果

### ①沿道森林の景観間伐

- カーブにおける走行車両の視認性の確保、路面凍結の緩和。
- 県指定史跡「神庭洞窟」等秩父地域特有の景観スポットを提供。
- ボランティア参加による地元と他地域との交流の場を提供。

### ②視点場（眺望空間）づくり

- 駐車スペースや回遊スペースの提供。
- 紅葉時期における道路の違法駐車解消。
- 景観間伐による眺望スペースの提供。
- 東屋、ベンチ、案内看板の設置。

## (3) 活動のきっかけ、目的・目標

- 奥秩父は、地形的に険しい谷地を一般国道140号が山梨に向けて抜けており、秩父連山などの自然景観が残っているものの、ゆっくり楽しめるような空間やスペースが乏しい。また沿道の手入れがいきとどかない樹林により、道路の見通しが悪い箇所も存在している。
- 「もっとすっきりすれば明るくなるし、木々の向こうの山並みも楽しんでもらいたい」といった思いから、平成18年度には沿道の「景観間伐」を、平成19・20年度には風景を楽しむ「視点場（眺望空間）づくり」をモデルとして取り組んだ。
- こうした眺望空間は、風景にとけ込みながら訪れる観光客をやさしく迎えるとともに、地域住民の交流の場になることも期待される。

## 2. 取り組み内容

### (1) 活動を行うに当たっての主な課題

#### ①沿道森林の景観間伐

- 景観間伐を実施する場合の景観的効果と問題点の整理
- 景観間伐を実施する場所の選定
- 景観間伐の方法

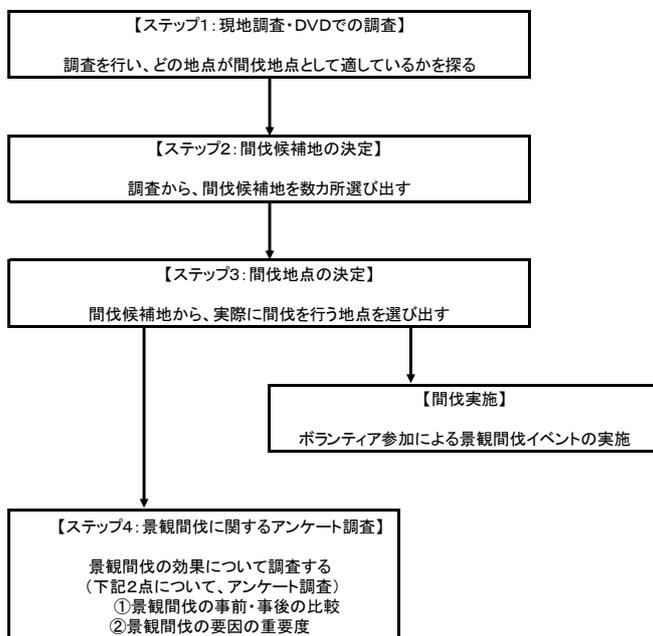
#### ②視点場（眺望空間）づくり

- 整備を行う現場だけを考えるのではなく、秩父路全体の地域の特性を十分把握した上で、眺望空間をどのように整備するか。

### (2) 具体的取り組み内容

#### ①沿道森林の景観間伐

##### 【活動の流れ】



### 【検討内容等】

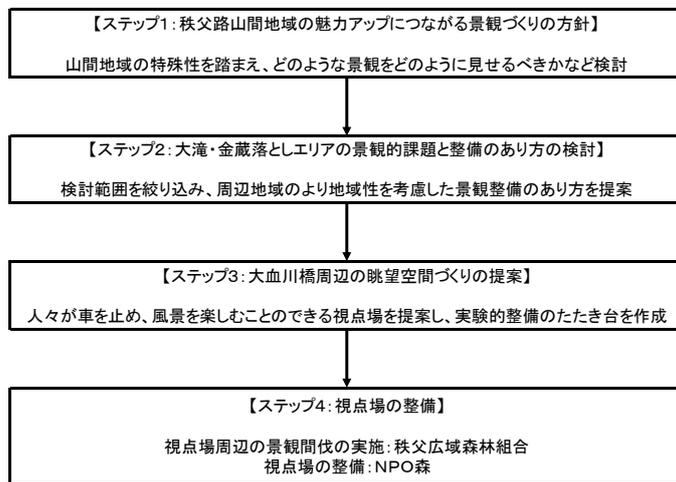
- NPO森及び埼玉大学の調査に基づき、剪定・間伐の可能性のある11地点を抽出した。
- ボランティア活動（地域内外の人の参加）による景観間伐を企画し、ボランティア活動としての、実施可能性、地権者の了解、景観・交通安全上の効果を勘案し3地点を選定した。
- 3地点のうち、2地点については、主として走行車両の視認性を確保するといった交通安全上の観点を重視した。残り1地点は、地域の観光資源の眺望を重視する地点を選定した。

### 【実施】

- 秩父広域森林組合の協力により実施し、2地点の一部でボランティアを含めた枝打ち・間伐作業を実施した。
- また、景観間伐についてのアンケートを、観光バス会社、行政（秩父県土整備事務所、秩父市）、埼玉大学学生を対象に実施した。

## ②視点場（眺望空間）づくり

### 【活動の流れ】



### 【検討内容等】

- NPO森、秩父広域森林組合、観光団体、地元関係者、秩父路魅力アッププロジェクトチーム関係者、行政（埼玉県・秩父市）で構成するワーキンググループにより、3回の検討会を行った。
- 検討は、3ステップにて段階的に進め、それぞれの目標に沿って実施された。
  - ・ステップ1：秩父路山間地域の魅力アップにつながる景観づくり
  - ・ステップ2：大滝・金蔵落とシェリアの景観的課題と整備のあり方の検討
  - ・ステップ3：大血川橋周辺の眺望空間づくりの提案

### 【実施】

- NPO森が整備の実施主体となり、提案内容を現実可能な形に調整しつつ整備した。また、荒川源流ログ技士会の協力を得て、荒川上流方向に目を向けた東家を整備した。

## 3. 取り組み上の反省点、活動の結果生じた課題、その対応方針等

### 【今後の課題等】

#### ①沿道森林の景観間伐

- 総合的な視点から考える
  - ・景観のみに偏らず、交通安全、環境問題（花粉、樹木の健全度、動物問題など）
- 地域と訪れる人との連携の必要性

- ・地域の人の間伐に対する考えを今後も把握していく必要がある。また、訪れる人が期待する景観についても把握する必要がある。

○間伐の効果的な実施

- ・景観間伐を展開する上で、(1)何を優先して実施すべきか、(2)必要性は本当にあるのか(何が効果として得られるか)を十分吟味する必要がある。
- ・場所の選定、実施規模については、専門家、地域(土地所有者)、行政による事前の調整が重要である。

**②視点場(眺望空間)づくり**

- 3回のワーキングにより議論しているが、短期的に調査からデザイン提案、施工までを実施する過程の中で、より多くの地域住民の意向を十分くみ取るチャンスは限られた。

- この視点場を今後どのように活用し、発展させていくか。

**4. 問い合わせ先**

所属団体：秩父路魅力アッププロジェクトチーム

担当者名：①NPO法人森、②埼玉県県土整備政策課政策形成担当

電話番号：①0494-54-2636 ②048-830-5365

メールアドレス：①npo-mori@muse.ocn.ne.jp ②a5250@pref.saitama.lg.jp

関連HP：<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/000016.html>

